

形名	FHTJ-41850LY-PD9 (60分点灯タイプ)
適合ランプ	東芝高周波点灯専用蛍光ランプ“メロウライン”(FHF32EX-N)
蓄電池	2-3NR-CY-LE-N

充電モニター
(充電表示灯) 付

このたびは東芝非常用照明器具・東芝階段通路誘導灯をお買いあげいただきましてまことにありがとうございました。お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。この器具は電子安定器を採用しておりますので、電源周波数に関係なくご使用できます。

・照明機器の工事に関しては、電気工事の有資格者の施工管理が義務付けられています。

■安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

・工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

工事店様へ

施工上のご注意

⚠

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- 器具の取り付けは、質量に耐える所に取扱説明書に従って行なってください。取り付けに不備があると器具落下、感電、火災等の原因となります。
- 電源線接続の際は、**④** 器具本体の取り付け**④**に従って確実に行なってください。接続が不完全な場合は、接続不良による発熱、火災、感電の原因となります。

- アース工事は電気設備の技術基準に従い確実に行なってください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。

- 器具を改造したり、部品を変更して使用しないでください。器具落下、感電、火災等の原因となります。

よく読んでね!

取り付け

電源線接続

アース工事

改造

- この器具は、腐食性ガス雰囲気場所には使用できません。そのまま使用しますと、変質、変色、絶縁不良、器具落下の原因となります。

腐食性ガス

⚠

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- この器具は屋内専用で、5℃～35℃の範囲で使用するよう設計してあります。高温で使用しますと火災の原因となります。屋外や湿気、水気のある場所で使用すると、湿気の浸入による絶縁不良、感電の原因となります。

- 器具に表示された電源電圧(定格電圧±6%以内)以外の電圧でご使用しないでください。間違えて使用しますとランプ、安定器などの短寿命、火災の原因となります。(器具の定格電圧と電源電圧は器具を取付ける前に必ず確認してください。)

5℃～35℃
の温度範囲で!

温度屋外

電源電圧

⚠

お願い

- 器具は慎重に調整されています。取り付けの際、衝撃を与えないでください。
- この器具の電源は**昼夜連続給電**してください。
- 間引き点灯の場合は、分岐回路をもうけ、そのスイッチで消灯してください。
- この器具は蓄電池を内蔵しています。電源を通電しないまま、蓄電池のコネクターをつないで放置すると過放電状態になりますので、おやめください。
- 内蔵蓄電池は、ご使用前に48時間以上充電してからお使いください。電池は設置後通電し、充電しないと非常点灯しません。
- 工事が終了してから、使用開始されるまで時間がある場合は、消灯するまで蓄電池を放電させてください。その後、蓄電池のコネクターをはずし、保存してください。
- 点検信号線はシールド線CPEV-Sを使用してください。送り配線する場合はシールドアースを接続してください。器具と接触させないように絶縁処理してください。シールドアースを器具と接触させるとシステム誤作動の原因となります。

東芝非常用照明器具・誘導灯点検カード

設置 年 月 日 設置場所			点検責任者		
点検年月日	点検箇所(チェック)	点検者	点検年月日	点検箇所(チェック)	点検者
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	

充電モニター の保守、点検方法

- ① 充電モニターが点灯しているかどうか確認してください。
- ② 充電モニターが消灯している時は蓄電池が充電されていません。蓄電池のコネクターはずれ、平常電源の開放がないか確認してください。
- ③ 充電モニターが点灯しない原因がわからない時には、お買い求め先、または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにご連絡ください。

・お客さまはお読みになったあとも必ず保管してください。

お客様へ

使用上のご注意

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- ランプ交換の際は必ず平常電源を切ってから行なってください。また、器具のお手入れの際は、必ず蓄電池のコネクターをはずし、**電源を切って**から行なってください。感電の原因となります。
- ランプの端部が黒ずんだり、暗くなった時は、早めに交換してください。ランプ交換の際は、“メロウライン”(FHF32)とご指定ください。間違った種類・ワット(W)数のランプを使用した場合は、過熱により器具が変形、変色したり火災の原因となります。(電源を入れた状態でランプ交換を行うと、ランプが点灯しない場合があります。)
- この器具に内蔵されている蓄電池を交換する際は、必ずコネクターをはずし、指定のものをご使用ください。蓄電池の指定以外のものの使用、分解、リード線の切断は、短絡、感電、蓄電池破裂の原因となりますのでおやめください。

可燃物
ランプや器具を布や紙などの可燃物で覆ったり、被せたり、燃えやすい物を近づけたりしないでください。火災の原因になります。

Hf
ランプ専用

適合ランプ

適合電池

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- 器具を清掃する際は、乾いたやわらかい布か、水で湿したやわらかい布をよく絞ってから拭いてください。
- 器具を清掃する際は、ソケット等の樹脂部には、水、洗剤、薬品などは使用しないでください。部品の劣化や感電の原因になります。
- ランプを清掃する際はランプを器具から外して乾いた布で拭いてください。

- 照明器具には寿命があります。設置して10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。点検・交換をおすすめします。
- 1年に1回は「安全チェックシート」により自主点検、および定期的に工事店等の専門家による点検を実施してください。(「安全チェックシート」は弊社ホームページに掲載しております。)
- 点検せずに長時間使い続けるとまれに火災・感電・落下などに至る場合があります。

お願い

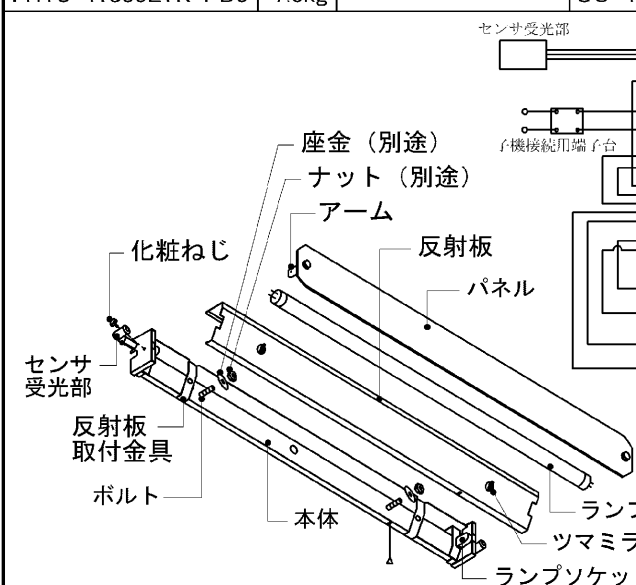
- ラジオ、ワイヤレス方式の機器は、なるべく照明器具から離してご使用ください。雑音が入る場合があります。
- 3ヶ月に1回、定期的に非常点灯を行い点検カードにその結果を記入してください。(下の点検カードを切り取って使用してください。)
- 点検スイッチの引きひもを引きますと、非常電源に切り替わり、非常点灯を確認できます。
- 定期点検の際の性能確認で点灯持続時間が60分以下の場合には、内蔵の蓄電池を交換してください。
- この製品には、ニカド蓄電池を使用しております。ニカド蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。電池の交換及びご使用済み製品の破棄に際しては、ニカド蓄電池のリサイクルにご協力ください。
- ランプ及び蓄電池以外の部品の交換は絶対におやめください。
- 点灯装置の改造、部品の追加は絶対におやめください。
- 蓄電池のヒューズ交換の際には、定格5Aを使用してください。
- 長時間使用しないときは、消灯するまで蓄電池を放電させてください。その後、蓄電池のコネクターをはずし、保存してください。
- 内蔵する蓄電池を有効に動作させるために、6ヶ月に1回充分な放電を行なってください。
- 点灯装置の動作不良が生じた場合は、新しい器具と交換してください。
- この器具は高温雰囲気中(140℃以上)で使用されたものは再使用できません。この場合は、新しい器具と交換してください。

**Ni-Cd**
ニカド電池のリサイクルにご協力をお願いします。
ご使用済みのニカド電池は、貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力をお願いします。

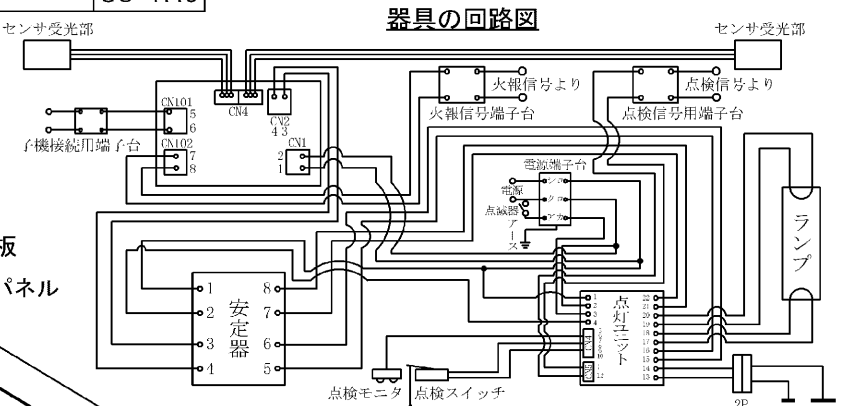
■各部のなまえ

器具質量		本体	カバー
FHTJ-41851LYK-PD9	8.0kg	FHTJ-41850LY-PD9	CO-4117
FHTJ-41852LYK-PD9	10.0kg		CO-4118
FHTJ-41855LYK-PD9	7.5kg		CO-4119

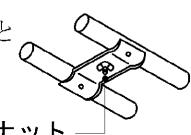
この取扱説明書は同種類の非常用照明器具・階段通路誘導灯と共通になっておりますので、お求めの器具と姿図がちがっている場合があります。



センサ受光部
座金(別途)
ナット(別途)
アーム
化粧ねじ
反射板
パネル
センサ受光部
反射板
取付金具
ボルト
本体
ランプ
ツマミラッチ
ランプソケット

器具の回路図


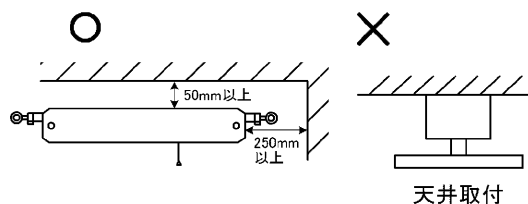
センサ受光部
火報信号より
点検信号より
火報信号端子台
点検信号用端子台
電源端子台
点検スイッチ
安定器
点検モニター
ランプ
2Pコネクター
蓄電池
ヒューズ5A

蓄電池の交換方法
チョウナットをはずすと蓄電池がはずれます。

チョウナット

■器具の取り付けかた

1 器具の取り付け場所

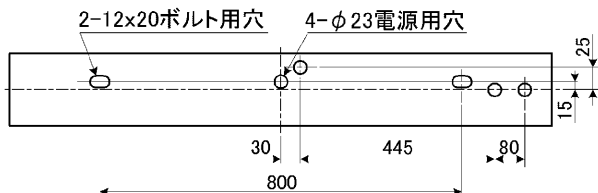
器具の取り付けには右図のように天井及び、壁面からはなして取り付けてください。センサ、カバーの取り付けができません。器具はセンサ検知範囲に合わせた場所に施工してください。



天井取付

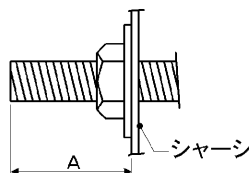
2 器具の取り付け寸法

背面仕様図



3 器具取付ボルト寸法

A寸法は、25mmを超えないようにしてください。



4 器具本体の取り付け

- ① ツマミラッチを90°回転させて反射板を本体からはずしてください。
- ② 付属のブッシュをはめ込み電源線、アース線を通してください。
- ③ 本体を取付ボルトに確実に取り付けてください。
(取付けボルトはW3/8またはM10を使用し座金を必ず入れてください。)

不備がありますと、器具落下の原因となります。

- ④ 電源線、アース線を端子台に確実に差し込んでください。リリースする場合は、必ずリリースボタンをドライバーで押し込んで線を引き抜いてください。

不完全な場合とリリースボタン以外を押した場合は、接続不良による発熱、火災、感電の原因となります。

端子台の容量は20Aです。

容量を超えると発熱、火災の原因になります。

- ⑤ 電源線、アース線の挿入部は、反射板との当たりを防ぐため小さく曲げ、端子台に押しつけてください。

- ⑥ 蓄電池のコネクターを確実に差し込んでください。

- ⑦ 反射板を本体にツマミラッチを90°回転させて取り付けてください。

不備がありますと、器具落下の原因となります。

- ⑧ ランプの口金ピンをソケットに差し込んだ後90°回転させ、ランプを確実に取り付けてください。

※ ランプを交換する際は、パネルをはずして行ってください。

●パネル・カバーの取り付けかた・はずしかた

FHTJ-41855LYK, FHTJ-41851LYKの場合

- ① パネルは斜め上方より本体の角穴へアームを差し込む
- ② 本体側面にて付属の化粧ねじで確実にパネルを固定してください。

FHTJ-41851LYKの場合

パネルは短い方が上になるように取り付けてください。

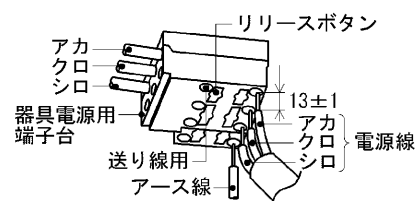
不備がありますと、器具落下の原因となります。

FHTJ-41852LYKの場合

- ① カバー取付具を本体の角穴へ差し込む
(注) カバー取付具には取付方向性があります。化粧ねじ受け穴側が外側になるように取り付けてください。
- ② カバーを器具本体に取り付け、カバーを本体に押し付けながら付属の化粧ねじで確実に取り付けてください。

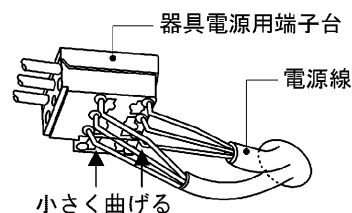
●パネル・カバーのはずしかた

- ① 本体の側面の化粧ねじをはずす。
- ② パネルを手前に引いてはずしてください。

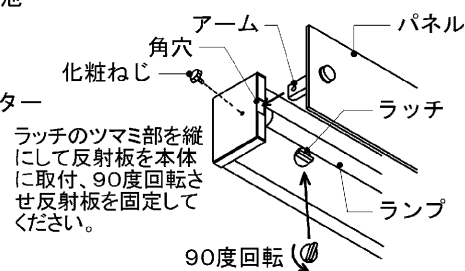


↑押しつける

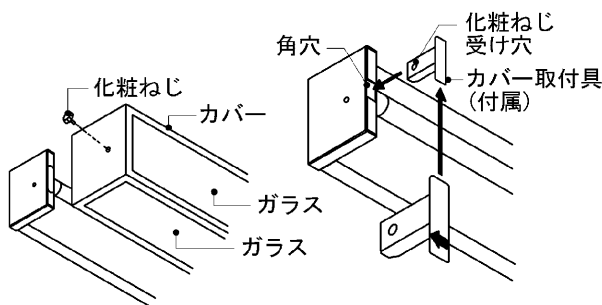
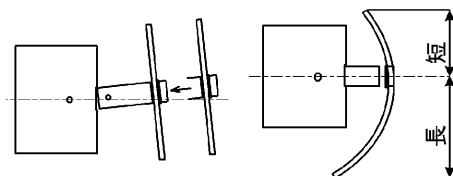
(適合電線φ1.6, φ2.0 単線)



小さく曲げる



90度回転



5 火報連動について

火報連動を行う場合は、信号装置からの信号線(AC100V)を火災信号端子台に挿し込んでください。

- 火報連動を行わない場合は、火災信号端子台には電源等接続しないでください。
火報信号端子に信号線を接続すると火報連動動作に自動設定されます。
誤って接続してしまった場合は下記リセット手順を行ってください。
不備がありますと、センサが正常に動作しない場合があります。

火報連動リセット動作手順

火報連動動作に設定された器具を火報連動なしに設定し直す場合は次の手順で火報連動動作を解除できます。

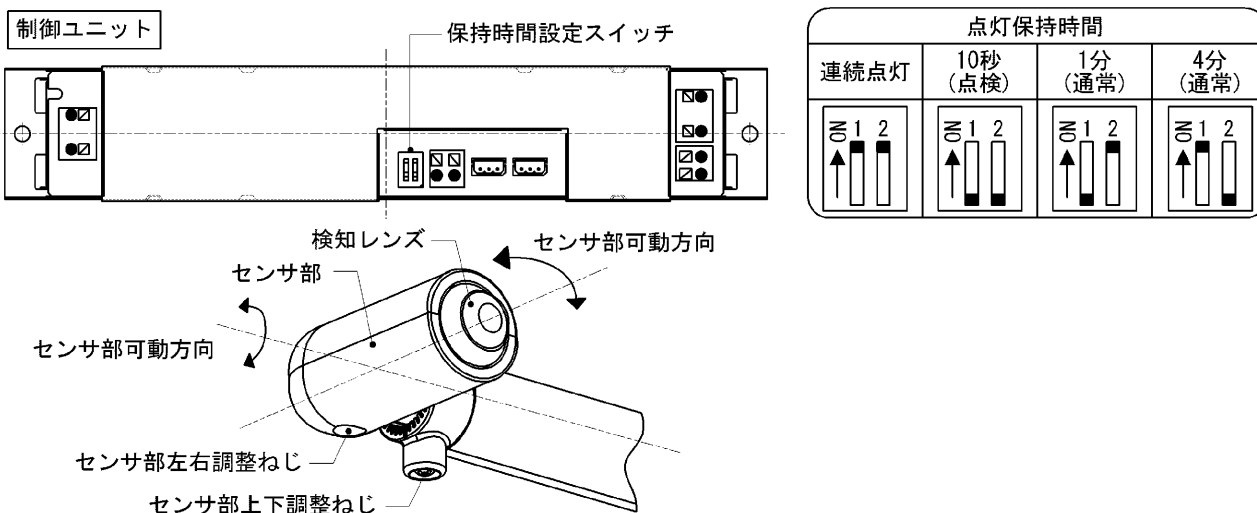
- ① 火報信号端子に「100V」が印加されていないことを確認します。
- ② 火報端信号端子に接続されている配線をはずします。
- ③ 一度点灯保持時間スイッチを「連続点灯」にしてランプが点灯させます。
- ④ 「1分(通常)」 または「4分(通常)」に設定します。

6 センサの調整のしかた

センサ部のなまえと調整方法

点灯保持時間とセンサ角度調整を行なってください。

(注) 本内容は調整の『目安』です。設置条件により検知範囲に差異が生じる場合があります。



調整のしかた (センサは2個ついていますので各々調整してください)

- ① 制御ユニット上の保持時間設定スイッチを調整してください。

(出荷時設定は1分に設定されています。)

注意：点検の設定は、動作確認の時だけ使用してください。

点検に設定後、約30分を経過すると自動的に標準の時間で動作するように変更されます。

(スイッチの位置は「点検」のまま、もう一度点検の設定にする際には、一旦スイッチを「連続点灯」位置以外に切替えてから「点検」の設定にしてください。)

- ② センサ検知方向を調整してください。

左右方向を調整する場合

センサ部左右調整ねじを緩めてください。

検知させたい方向へセンサ受光部を向けてください。

センサ部左右調整ねじを締めて固定してください。

上下方向を調整する場合

センサ部上下調整ねじを緩めてください。

検知させたい方向へセンサ受光部を向けてください。

センサ部上下調整ねじを締めて固定してください。

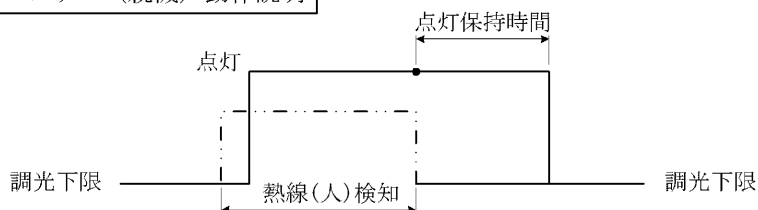
(注) センサの調整が不十分ですと正常に動作しない場合があります。

センサの調整は必ず左右方向を先に行なってください。

7 センサ動作説明

センサー（親機）動作説明

※電源投入時、一旦の100%点灯後センサ動作モードになります。



人などの熱線を検知すると点灯モードとなります。

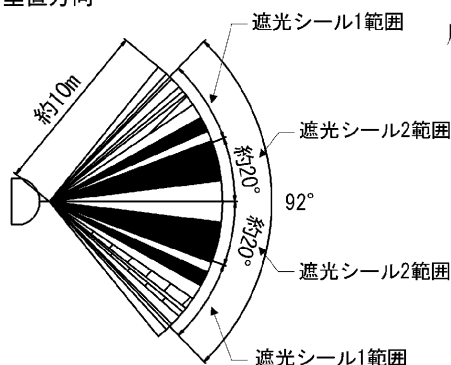
検知範囲から人がいなくなっても点灯時間設定スイッチで設定した時間点灯を保持します。

- 熱検知後、器具が点灯するまでに1~2秒程度かかることがあります。
- 点灯保持時間は約1分(標準)と約4分(長時間)に設定可能です。

センサー検知範囲（周囲温度：20℃の場合）

垂直方向 ＜壁取り付けの場合＞

垂直方向

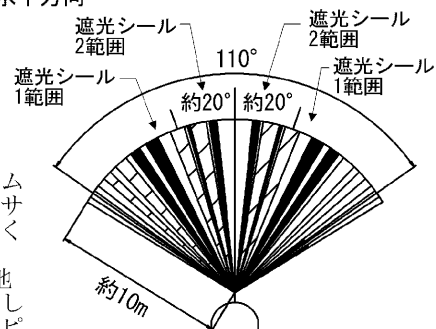


センサーによる検知範囲に入る人体などの「動き」を検知します。
(検知する温度差：3℃以上、
移動スピードは0.3～2m/sec.)
周辺部は若干感度が鈍ります。

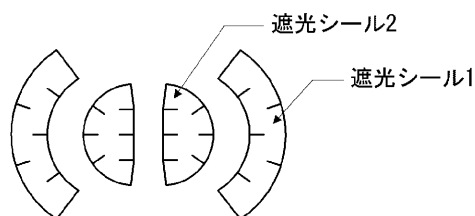
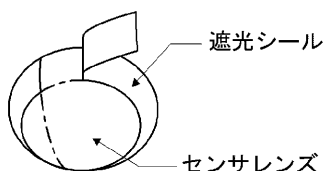
(注)・遠方を検知させる場合はビームが疎らになりますので、センサー部を水平方向へ若干ずらしてください。
・検知範囲は約10mです。(検知範囲を人が横切る場合)ただし周囲温度、人体温度、移動スピード、移動角度などの条件により検知範囲に差異が生じる場合があります。

水平方向 ＜壁取り付けの場合＞

水平方向



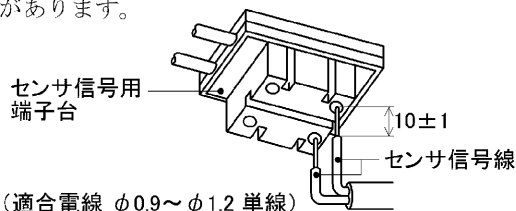
センサレンズに遮光シールを貼ることで検知範囲を限定できます。



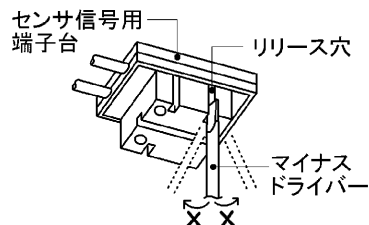
8 センサ子機接続方法

人感センサユニットDF-20209Yを接続する場合はセンサ信号線をセンサ信号用端子台へ確実に接続してください。リリースする場合は、必ずリリースボタンをマイナスドライバーで押し込んで線を引き抜いてください。

(注) ドライバーは端子台に垂直に押し込んでください。押し込み後、ドライバーを強く傾けると端子台が破損する場合があります。



(適合電線 φ0.9～φ1.2 単線)



9 センサに関する注意事項

- ① このセンサーは熱線を検知するため、人体以外の温度変化でも検知する場合があります。
(例 ●太陽光などの強い光の直接照射 ●エアコンなどの気流 ●検知エリア内の照明器具)
●ブラインドやカーテンなどの動き ●人体以外の小動物の動き
- ② このセンサーは温度変化を検知するため、夏場など周囲温度が人体とあまり変わらない場合には、検知範囲や感度が多少鈍くなる場合があります。
- ③ このセンサーは「動き」を検知するため、静止している場合や、動きの小さい場合は、検知しないことがあります。
- ④ センサーのビームを遮へいする障害物がある場合は、検知できません。
- ⑤ この器具は熱線がセンサーを横切る場合に検知します。直線廊下などセンサーに直線的に人が動く場合は検知距離が短くなる場合があります。

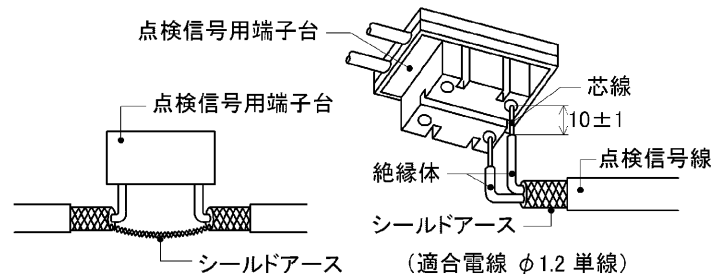
10 センサが正常動作しない場合は

表にしたがって調べいただき、処置を行なってください。

現象	考えられる原因	処置
●人がいなくなっても調光しない	点灯保持時間が「連続点灯」になっている。	点灯保持時間を設定してください。(4ページ参照)
	火報連動端子台に電源を投入してしまった。	火報連動リセット動作(4ページ参照)
●点灯しない	センサの前に障害物がある。	障害物を取り除く
	点滅器がOFFになっている。	点滅器をONにする。(3線式配線の場合)
●正常動作しない	センサの角度調整が不十分	センサの角度を再調整する。
	検知範囲に差異がある。	正常動作です。(センサに関するご注意参照)
	検知範囲内に検知させたくない場所がある。	遮光シールにて検知範囲を制限する。

11 点検信号線の接続

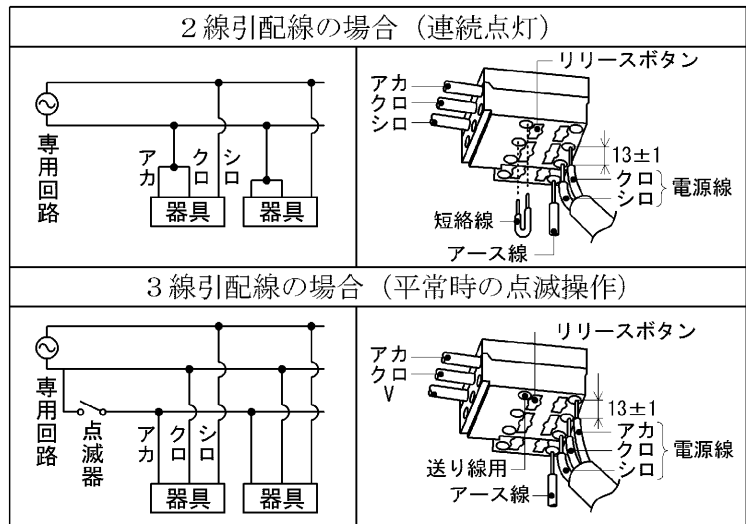
- 自動点検装置を使用する場合は、点検信号用端子台に接続してください。
- 点検信号線はシールド線CPEVSを使用してください。シールドアースは自動点検装置のアース端子に接続し、器具には接触させないように絶縁処理してください。点検信号線を送り配線する場合はシールドアースを接続してください。



■配線方法

- 電源は必ず単相2線から配線してください。単相3線・3相3線からの配線は部品を焼損することがあります。
- 電源回路は必ず分電盤からの専用回路とし、分電盤と器具の間には点滅器を設けないでください。

(適合線φ1.6, φ2.0 単線)



■モニターランプ表示内容

[正常状態]

ランプモニター (アカ)	消灯
充電モニター (ミドリ)	点灯

[異常状態]

	モニターランプ 点灯状態	考えられる原因	対処方法
ランプ モニター (アカ)	点灯	ランプが破損している	ランプ交換して点検スイッチを2秒以上引いてください。
		ランプがはずれている	ランプを取付けて点検スイッチを引いてください。
		蓄電池の充電不足	AC100Vを通电してください。ランプモニターが消灯すればランプは正常です。
充電 モニター (ミドリ)	点滅	ランプ寿命	ランプ交換して点検スイッチを2秒以上引いてください。
	消灯	蓄電池コネクタがはずれている	コネクタを接続してください。
		電源線が接続されていない	電源線を正しく接続してください。
[自動点検中]	点滅	蓄電池の寿命	新しい蓄電池と交換してください。

注1) ランプ交換後、点検スイッチを2秒以上引かないと正常状態に復帰しません。

注2) 点検の際には48時間以上充電した後、自動点検機能により点検を行うか20分(60分)以上電源を遮断してください。点検の結果、充電モニターが点滅した場合は必ず蓄電池を交換してください。
また、蓄電池をはずした場合には点滅動作がリセットされますのでご注意ください。

注3) 蓄電池交換の際は、通電状態で交換してください。電源遮断状態で交換すると、モニターの点滅が停止しない場合があります。

■器具のアドレス設定

自動点検制御装置との通信を行なう上で器具のアドレス設定が必要となります。

予め用意されている系統図に従って個別アドレスを正しく設定してください。

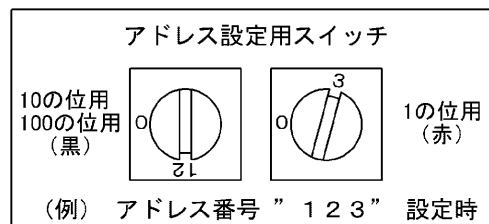
- ・アドレス設定はユニットのアドレス設定スイッチで行います。
- ・128台まで設定可能です。

(注意) アドレスの設定を変更した場合には、10秒で確定します。
出荷時は番号 0 です。(アドレス未設定)

設定が不完全な場合、通信異常の原因となります。

ユニット

＜アドレス設定スイッチ＞



■仕様

	形名	FHTJ-41850LY-PD9
平常時	電源	交流50Hzまたは60Hz 100V-242V
	入力電流 消費電力	0.52A-0.22A 50W-49W
	調光時消費電力	24W
	光源	FHF32EX-N×1
非常時	電源	密閉形Ni-Cd蓄電池 2-3NR-CY-LE-N (NI-Cd) 7.2V 3000mAh
	光源	FHF32EX-N×1
	非常時光束	定格出力3520lmの31%点灯

修理・お取り扱い・お手入れについてご不明な点は

お買い上げの販売店へご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、下記の窓口へ

東芝ライテック照明ご相談センター

0120-66-1048 (通話料：無料)

受付時間：365日 9:00~20:00

携帯電話・PHSなど 046-862-2772 (通話料：有料)

FAX 0570-000-661 (通話料：有料)

- ・お客様からご提供いただいた個人情報、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- ・利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社へ、お客様の個人情報を提供することがあります。

日本国内専用
Use only in Japan

保証について

- ・保証期間は、商品お買い上げ日より1年間です。但し、LED器具の点灯装置、蛍光灯器具・HID器具の安定器(インバータバラスト含む)については3年間です。
- ・セード、グローブ、リモコン送信器は保証対象とし、ランプ、点灯管、電池などの消耗品は対象外とさせていただきます。

東芝ライテック株式会社 施設・屋外照明部 施設照明担当 〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13(南品川JNビル) TEL (03) 5479-1071 FAX (03) 5479-3393

お客様はお読みになったあとも必ず保管してください。

001E1050E

点検のポイント

- ① 外観チェック
(1) 充電モニターが点灯していますか。
(2) 光源、表示板などは汚れていませんか。
- ② 切替動作チェック
点検スイッチを引いてください。
非常点灯に切り替わりますか。
- ③ 性能チェック
点灯持続時間
非常点灯切替後30分間点灯が持続しますか。

注意事項

- ① 電源は昼夜連続給電願います。
- ② 3ヶ月に1度は定期的に点検し、点検カードに記録願います。
- ③ 点灯持続時間のチェックを行い、性能が満足しないときは器具に内蔵されている同一形名の蓄電池と交換してください。
※交換した古い蓄電池はすてないで買い求め先または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにお渡しください。
- ④ 万が一うまく動作しない場合、原因がわからない時には買い求め先または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにご連絡ください。

●自己点検開始方法

- ※ 自己点検モードに切り替える前に次の項目を確認してください。
 下記①～③を満たさない場合は自己点検モードには切り替わりません。
 条件を満たしている場合は規定時間以上の電源遮断時にも蓄電池の寿命を判定します。
- ①充電モニター(緑)が点灯している。(蓄電池の充電がされている)
 - ②ランプモニター(赤)が消灯している。(ランプが正常に接続されている)
 - ③操作前に48時間以上の充電がされている。

▽LEDモニター表示図式例

点灯	
消灯	
点滅	

スタンバイモードとは・・・	電源通電時に点検スイッチを5秒引き続けた後のLEDモニター(赤・緑)が同時点滅している状態です。5秒間継続します。
自己点検モードとは・・・	スタンバイモード(LEDモニター同時点滅)時に再度点検スイッチを引くと自己点検モードに入ります。点検スイッチから手を離しても非常点灯(LEDモニター消灯)を継続している状態です。

	作業内容	冷陰極ランプ	LEDモニター表示		備考
			充電(緑)	ランプ(赤)	
1	点検スイッチを5秒間引き続けてください。(スタンバイモードに移行します。)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	・点検スイッチを引くと、充電モニターは消灯しますが、5秒引き続けると充電モニターとランプモニターが同時に点滅を開始し、スタンバイモードに入ったことをお知らせします。
2	スタンバイモードに入ったら点検スイッチから手を離してください。	(スイッチを引いたままの状態)	非常点灯	点滅	・スタンバイモードは約5秒間です。自己点検モードに移行する前にスタンバイモードが解除された場合は1の操作からやり直してください。 ・スイッチを引いたまま5秒経過した場合もスタンバイモードが解除されます。
		(スイッチを解除した状態)	非常点灯	点滅	
3	スタンバイモードの時に再度点検スイッチを引きます。(自己点検開始)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	
4	規定時間経過、又は蓄電池寿命を判定すると自動的に復帰します。復帰後充電モニターを確認してください。	常用点灯	点灯	消灯 ●	・充電モニター(緑)が点滅している場合は蓄電池容量が減少しています。新しいものと交換してください。

- ※ 次の場合は自己点検モードが解除されます。この場合は正しい判定ができませんので、蓄電池の寿命判定は必ず自動的に復帰した後に充電モニターを確認してください。
- ・自己点検モードのときに点検スイッチを引いた場合。
 - ・自己点検モードのときに停電(電源遮断)が発生した場合。

自己点検が動作しない場合は・・・

